



だて正夢

普及センターホームページでは、稲作通信

のバックナンバーもご覧いただけます→

登米地域の稲作通信 第4号

令和6年6月21日発行

宮城県米づくり推進登米地方本部

宮城県登米農業改良普及センター

Tel : 0220-22-6127

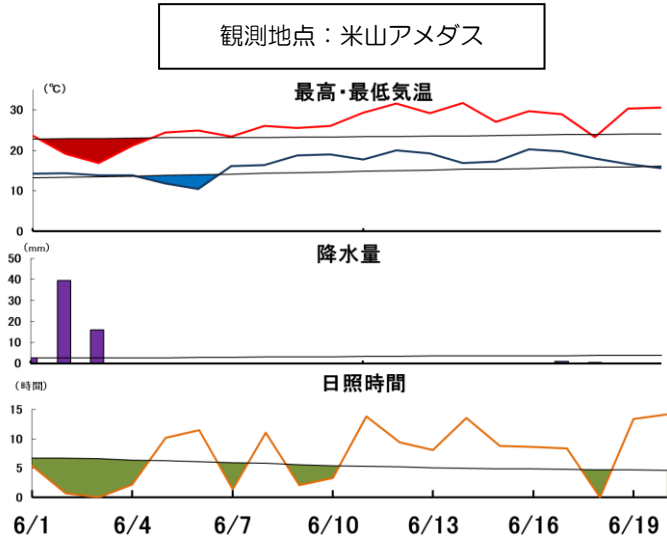


<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

【気象経過】

6月中旬の気温は平年より高く推移し、特に12、14、19日は最高気温が30℃を超える真夏日となりました。日照時間も平年比200%と平年より多くなりました。降水量は平年比4%と極端な少雨で推移しました。

東北南部の平年の梅雨入りは6月12日頃となっていますが、6月20日時点で本年の梅雨入りは発表されていません。



【移植栽培】

1 生育状況

生育にばらつきはあるが、概ね順調。生育の早いほ場ではすでに有効茎数を確保！！

【水稲生育調査結果(移植)】

No.	品種	栽培タイプ	調査地点	栽植密度(株/m ²)	移植日	6月10日			6月20日		
						草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉色(GM)	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉色(GM)
1	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町	15.9	5月19日	25.1	106.5	33.5	31.3	249.6	40.8
					前年比・差	95%	81%	-3.8	78%	86%	-4.1
2	ひとめぼれ	Cタイプ	登米町	16.0	5月16日	27.6	100.8	37.8	34.6	299.2	43.9
					前年比・差	±0日	119%	72%	1.7	94%	95%
3	ひとめぼれ(晩期栽培)	-	米山町	20.8	5月29日	-	-	-	20.7	104.0	-
					前年比・差	-	-	-	-	-	-
4	ササニシキ	Cタイプ(復活ササニシキ)	豊里町	14.8	5月13日	28.1	100.6	38.2	34.6	279.7	41.4
					前年比・差	+1日	100%	66%	-0.4	85%	89%
5	つや姫	Cタイプ	迫町	15.3	5月6日	31.4	361.1	42.2	48.4	546.2	37.9
					前年比・差	-	-	-	-	-	-
6	だて正夢	-	迫町	19.3	5月14日	32.2	125.5	37.6	41.2	370.6	39.9
					前年比・差	-7日	121%	85%	6.3	119%	155%
7	金のいぶき	-	登米町	16.5	5月14日	32.7	143.6	37.4	37.0	448.8	45.2
					前年比・差	+5日	111%	58%	-2.2	81%	91%
8	つきあかり	-	豊里町	19.3	5月4日	33.3	202.7	39.2	53.2	370.6	42.5
					前年比・差	-	-	-	-	-	-

※栽培タイプ

Cタイプ：農薬・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減；農薬8成分、化学窒素成分3.5kg以下）

※平年値は、過去5か年（令和元年～令和5年）の平均値。

ただし、金のいぶきは調査4年目のため、過去3か年（令和3年～令和5年）の平均値。

※ひとめぼれ(晩期栽培)、つや姫、つきあかりは調査1年目のため、本年値のみ。

6月20日現在、管内の生育調査ほのひとめぼれの草丈、茎数、葉色は概ね平年以下～平年並で推移しています。つや姫は田植えが早かったこともあり、茎数はかなり多く、すでに有効茎数を確保しています。ササニシキの草丈、茎数、葉色は平年を下回っています。

だて正夢の草丈、葉色は平年を上回り、茎数は下回っています。金のいぶきの草丈は平年を下回っていますが、茎数、葉色は概ね平年並で推移しています。つきあかりはつや姫同様、すでに有効茎数を確保しています。

高温登熟による品質低下回避に向けて、今年度より晩期栽培の生育調査を行っております。今後も生育状況を報告いたしますので、ご確認ください。

2 今後の管理

(1) 葉いもち対策 補植用残苗の放置が見られます。速やかに処分を！！

いもち病の病勢進展は1回の感染好適条件の出現により、発病残苗などの伝染源を中心に約1kmの範囲まで拡大します。

発病が見られたときには速やかに茎葉散布剤で防除してください（環境保全米で発生がみられた場合はJAにご相談ください）。

(2) 生育状況に応じた水管理

生育は移植時期によってばらつきが大きくなります。生育に応じた水管理を行いましょう。目標茎数に達していない場合は、水深2～3cmの浅水管理で分けつの発生を促しましょう。既に目標茎数に達している場合については早急に溝切りをし、中干しを開始しましょう。

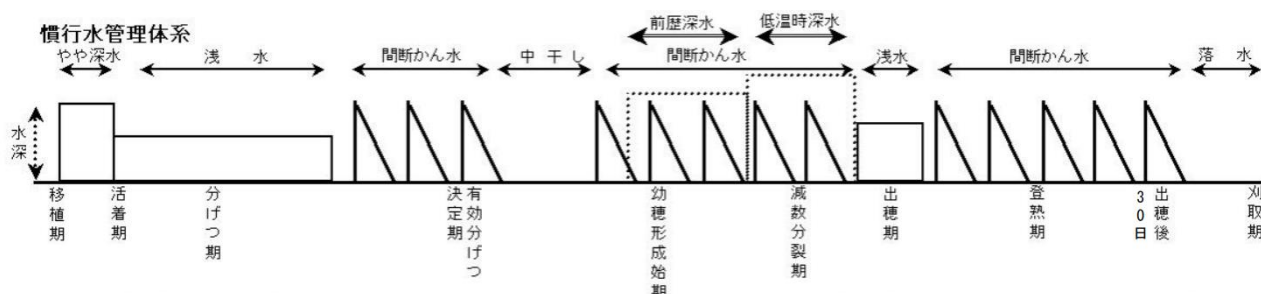
気温の上昇とともに土壌の還元が進み、ガスの発生している場所が見られます。根の活力低下を防ぐため、特に稲わらをすき込んだほ場や排水不良田では、ガス抜きのため溝切りし、落水して保水管理を行いましょう。

中干しの程度は、田面に小さな亀裂が入り、足跡がつく程度の固さとし、幼穂形成期（幼穂長が1mm程度）までに終わるようにしましょう。中干し終了後、急激に湛水状態にすると土壌の還元が進み酸素不足になり根を傷めやすいため、中干し終了直後は走り水程度として徐々に湛水状態に戻しましょう。

品種別の有効茎数の目安

品種	㎡当たり茎数 (本)	1株当たり茎数(本)		
		50株植え	60株植え	70株植え
ひとめぼれ	410～460	27～30	23～25	19～22
ササニシキ	480～510	32～34	26～28	23～24
つや姫	400～440	26～29	22～24	19～21
だて正夢	350～400	23～27	19～22	17～19
金のいぶき	440～490	29～32	24～27	21～23
つきあかり	330～350	22～23	18～19	16～17

6月20日時点の生育から、中干しの実施期間は6月第6旬～7月第2半旬頃になる見通しです。中干しは稲の生育を確認のうえ実施し、遅くとも7月15日（幼穂形成始期）頃までには終了しましょう。

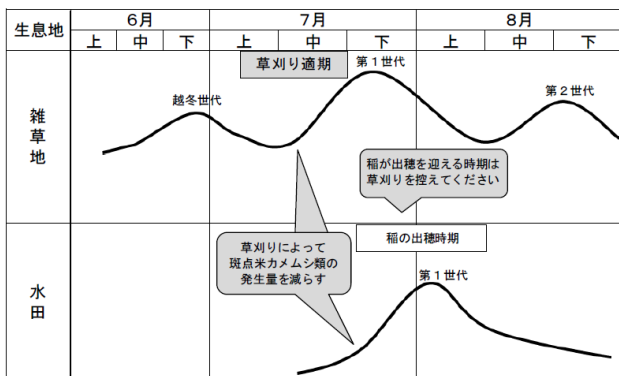


水管理の模式図

(3) 水田内の雑草対策と畦畔管理

ノビエやイヌホタルイ等は斑点米カメムシ類を呼び寄せるので、本田内の除草に努めてください。(※環境保全米では使用できる除草剤が限定されていますので、残草した場合は、まずはJAにご相談ください。)

斑点米カメムシ類は、主にイネ科植物を好むため、生息場所となるイネ科雑草が生えた畦畔や雑草地の草刈りは、斑点米カメムシ類の発生量を減らすのに効果的で、玄米に対する被害抑制にもなります。主に第1世代成虫(発生盛期：7月中下旬)が水田に飛び込んで稲を加害するため、イネ科雑草が生えた畦畔や雑草地の草刈りを7月中旬までに行うことが重要です。



アカスジカスミカメ*の発生消長(成虫)
※斑点米カメムシ類の最重要種

(参考)宮城県内の斑点米カメムシ類の主要種



【直播栽培】

1 生育状況

【水稻生育調査結果(乾田直播)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	播種月日	苗立ち本数 (本/m ²)	6月10日		6月20日		
						草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (GM)
1	ササニシキ	プラウ耕 グレートリル 体系	米山町	4月26日	79.1	26.7	119.8	36.5	310.7	34.9
					前年比・差 70%	99%	106%	119%	333%	-2.5
					平年比・差 103%	101%	138%	109%	217%	-2.1

※ササニシキは調査4年目のため過去3か年の平均値を使用。

6月20日現在、ササニシキの茎数は平年をかなり上回り推移しています。葉色は平年を下回っています。

2 今後の管理

(1) 葉いもち対策

水面施用剤を防除適期(6月末まで。遅くとも7月5日頃までに)に散布してください。

(2) 水管理

乾田直播栽培では、移植栽培に比べて減水深がやや大きいので、水を切らさないよう管理してください。有効茎数確保後は軽めに中干しを行い、その後間断かん水に移行しましょう。

(3) 雑草対策

直播で残草した場合は、雑草の種類や生育状況を確認した上で中・後期除草剤を選択し、適期に追加防除を行ってください。

6月～8月は「農薬危害防止運動」期間です。
農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。